

# 九重火山の火山活動について (1999年5月~10月)\*

## Recent Volcanic Activity of Kuju Volcano (May-October, 1999)

京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設火山研究センター  
Aso Volcanological Laboratory, Kyoto University

### 1. はじめに

九重火山通称硫黄山の噴火活動が1995年10月に始まって4年が経過した。噴火当初は、火山灰の噴出が数回観測されたが、その後は、常時水蒸気の噴出がほとんど変化せずに長期間継続している。

### 2. 火口状況

新火口群からの噴煙活動は、前回の報告(1999年5月)と殆ど変化なく、依然としてbおよびc火口列とd火口は活発である。

### 3. 地震活動

九重火山地域で現在発生している地震活動は、硫黄山付近および西・北西地域の筋湯地域周辺と南・南西地域の瀬の本・池山水源地域に震源域がまとまるが、前回報告の1999年5月の群発地震(5/11-15, N>100 M 1.9筋湯地域)以後は顕著な活動は発生していない。平均1日10回前後の発生で推移している。

### 4. 地殻変動観測 光波測距(斜距離測定)

地盤変動における、星生山山頂を望む辺長測量も前回の報告と同様大きな変化が無く、収縮が依然緩やかであるが継続している。測線：諏我守-星生山では既に45cm以上収縮した。

傾斜観測には大きな変動は見られない。

### 5. 地磁気観測

地磁気全磁力変化も前回報告と同様な冷却帯磁傾向が現在でもほぼ一定の速度で進行している。図示した日値は、5分観測値から火山研究センターの値を差し引いた後、夜間平均(0時~4時)を求めたものである。

### 6. まとめ

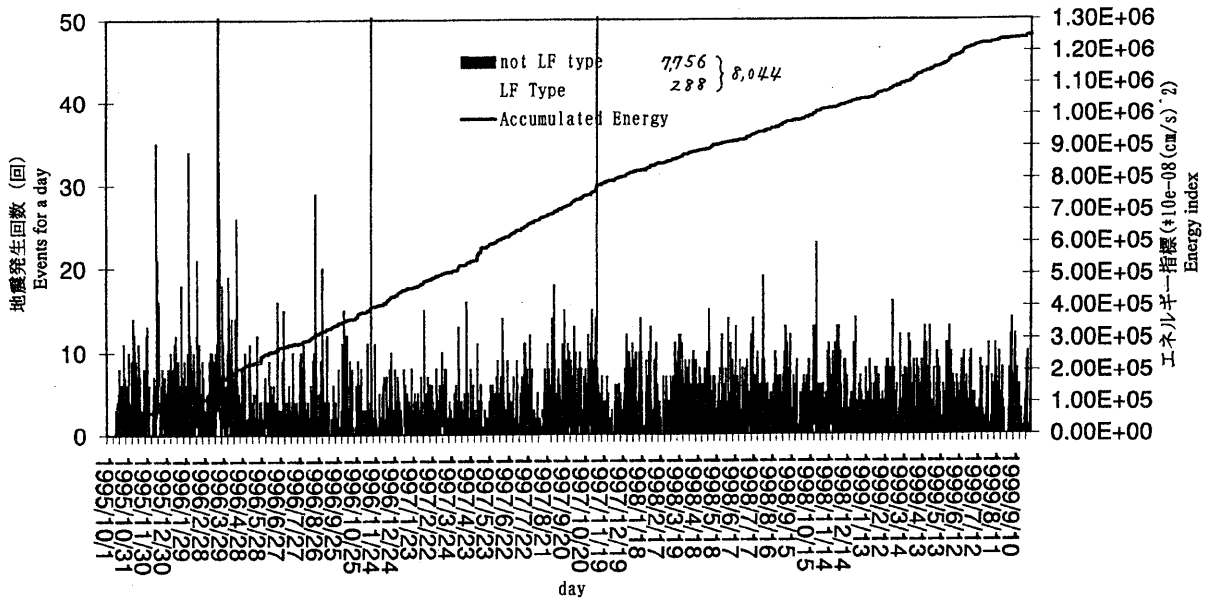
火口表面活動・地震活動・地盤変動・地磁気のすべてにおいて、前回の報告と同じ傾向が依然継続している。今後、このような傾向が直ちに止まるとは考えられない。

---

\*Received 8 Dec., 1999

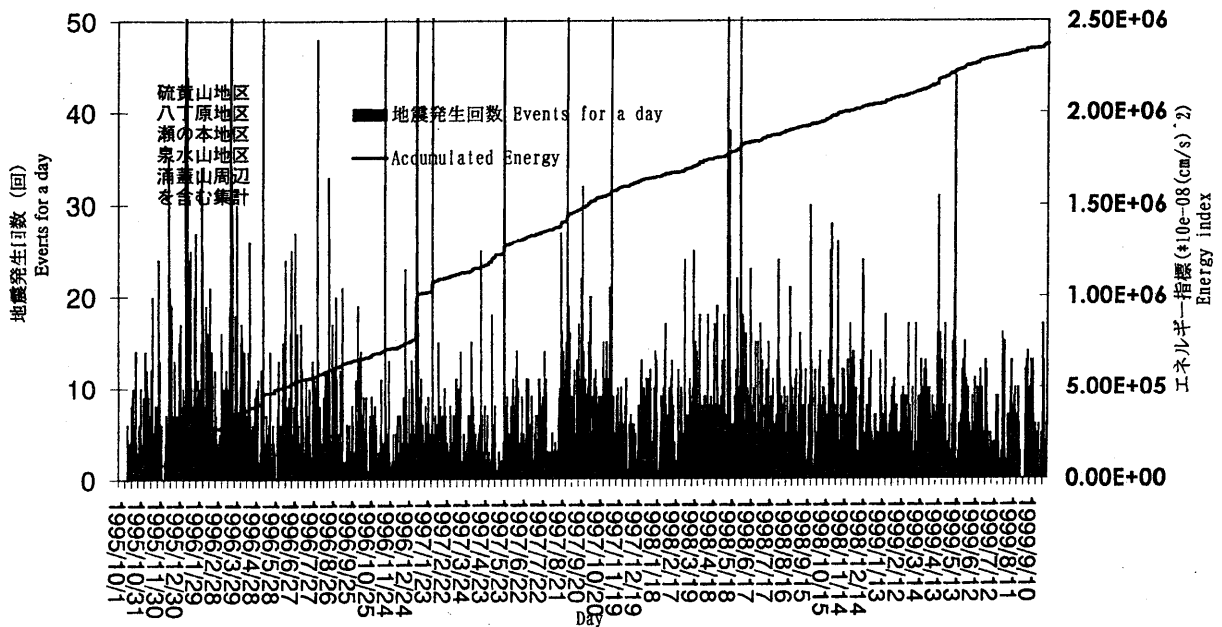
# 九重火山 硫黄山地区の累積地震エネルギー

Released seismic energy at Iwo-yama, Kuju. S-P time <0.6s

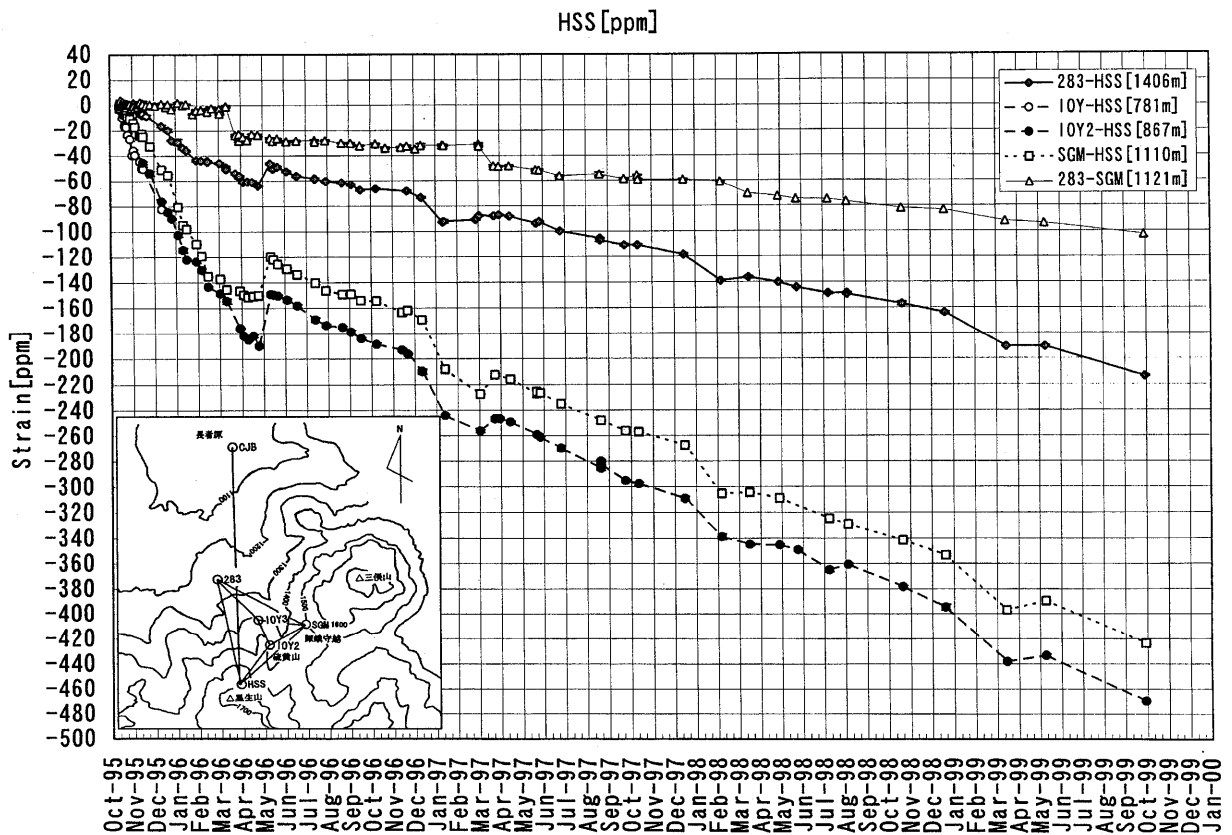


# 九重火山とその周辺の累積地震エネルギー

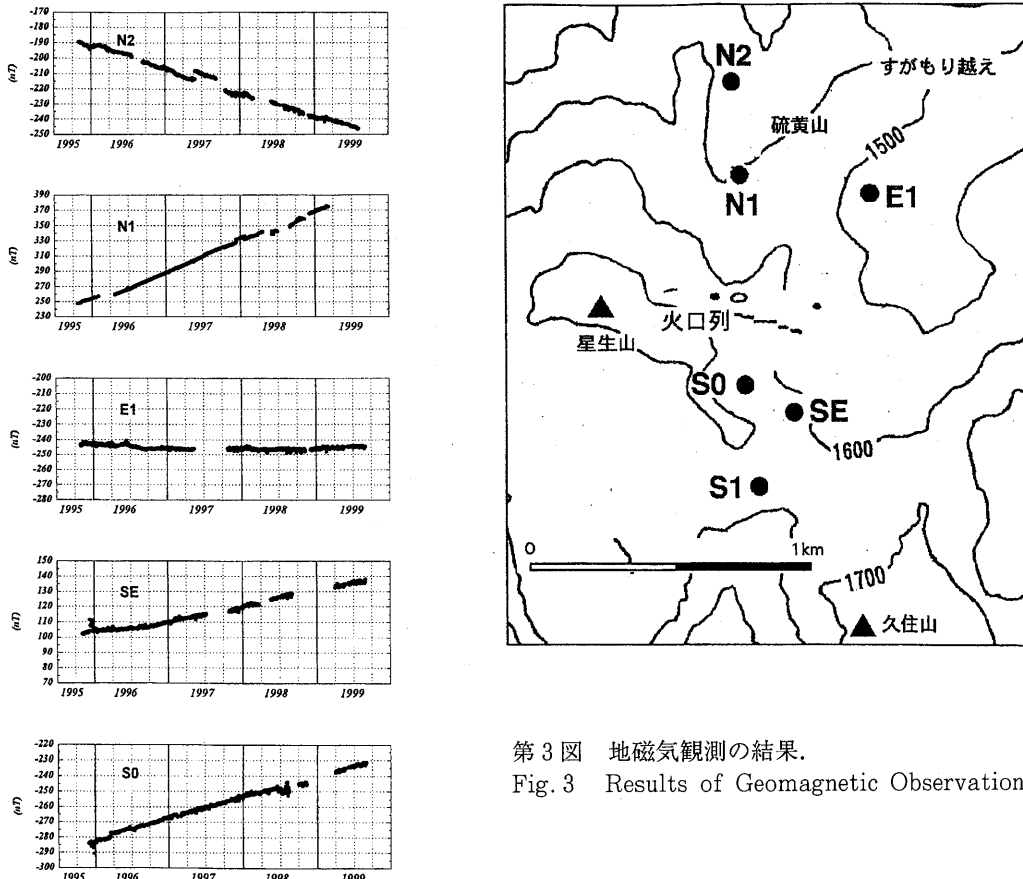
Released seismic energy in and around Kuju. S-P time <2.0s



第1図 九重火山とその周辺地域および硫黄山地域の地震活動（日別発生頻度および累積エネルギー）  
 Fig.1 Seismicity in and around Kuju Volcano.



第2図 光波測量による斜距離変化 (測線283-HSS, SGM-HSS, 283-SGMおよびIOY-HSS)。  
 Fig. 2 Changes of Distances at Io-yama Area (baseline 283-HSS, SGM-HSS, 283-SGM and IOY-HSS).



第3図 地磁気観測の結果。  
 Fig. 3 Results of Geomagnetic Observation.